

## 会 議 議 事 録

1 会議名	第4回持続可能な長岡水道のあり方に関する懇話会
2 開催日時	令和6年11月28日（木曜日）午後3時30分～午後5時15分
3 開催場所	水道局 3階会議室
4 出席者名	（有識者）鯉江座長、長谷川副座長、大竹委員、田中委員、 並木委員、平賀委員 （事務局）植木局長ほか関係職員
5 欠席者名	西片委員
6 議題	1 開会 2 第3回懇話会でいただいた意見の概要（報告） 3 議事 課題に対する取組について（見通しと対策） （1）水道水の安全性や安定供給の維持、料金納入方法等にかかるサービス向上 （2）ベテラン職員等の減少に伴うマンパワー低下への対応 （3）収益減少とコスト上昇による将来的な資金不足への対応 4 その他 5 閉会
7 会議資料	別添のとおり
8 議事概要	別添のとおり

## 第4回持続可能な長岡水道のあり方に関する懇話会

### 議事概要

- ・はじめに、事務局から、第3回懇話会でいただいた意見の概要について報告があった。
- ・次に、長岡市水道事業の課題、
  - (1) 水道水の安全性や安定供給の維持、料金納入方法等にかかるサービス向上
  - (2) ベテラン職員等の減少に伴うマンパワー低下への対応
  - (3) 収益減少とコスト上昇による将来的な資金不足への対応に対する取組の見通しと対策について、事務局から説明があり、このことに対して議論が行われた。

指摘・意見等は以下のとおり

<「(1) 水道水の安全性や安定供給の維持、料金納入方法等にかかるサービス向上」にかかる事項>

#### 【委員】

- ・給水車の運転に係る中型普通運転免許取得助成制度の活用実績はどうか。また、免許の取得に要する時間については、職務上どのように取り扱っているのか。
- ・免許取得助成制度の実績が少ないのは、免許取得のメリットが少ないためと考えられる。免許取得を促すためには、助成額の増加や勤務時間内に取得できるよう見直すなど、制度の拡充を行う必要があるのではないか。

#### 【事務局】

- ・免許取得助成制度の実績は1人で、同じく助成制度を持っている他市と比べても、本市の活動は低調であると感じている。また、免許取得については、現状では職務時間外に行うこととなっている。
- ・免許取得に要する時間の職務上の取扱いの見直しについては、市全体でバランスを取る必要がある、関係部局との協議を行っているところである。

#### 【委員】

- ・災害時等における管工事業協同組合との連携については、事前に費用分担など、踏み込んだ内容について決めておかないと理解が得られないケースが見受けられるため、きめ細かな対応をお願いしたい。
- ・管工事業協同組合に加盟しているのは中小企業であり、相当厳しい状況に置かれている。組合との連携拡充を図っていくのであれば、そのことによるインセンティブが必要ではないか。

#### 【事務局】

- ・東日本大震災や熊本地震、能登半島地震においても管工事業協同組合と合同で応急復旧、支援を行っているが、水道局の職員も民間の業者も人手が不足しており、基盤強化を図っていきたいと考えている。
- ・管工事業協同組合と連携を図っていくうえでは、お互いにとってメリットがあるような連携の仕方を心掛ける必要があると感じている。

#### 【委員】

- ・PFOS及びPFOAの検査機器の導入については、購入のほかにリースという方法もあるので、委託化を含めた費用対効果や職員の技術力も併せてより良い方法を選択するのがいいのではないかと。
- ・市民の立場で考えると水質は特に重要。水質に悪影響を及ぼす可能性のあるリスクを洗い出し、管理対応する方法を定めた水安全計画に基づき、安全に配慮して水質管理を行っていることをしっかりとPRして行くことが大切ではないかと。
- ・水道料金を改定することになった場合、施設・管路の老朽化だけでなく水質面も改定する理由に含まれていれば、市民の納得感につながる重点ポイントになるのではないかと。
- ・水道水が嫌だから、ウォーターサーバーでミネラルウォーターを飲んだり、料理に使ったりというケースが増えているとのことなので、そのあたりも改善していけたらよいのではないかと。

#### 【事務局】

- ・本市の水道局では、平成27年に水質検査結果の精度と信頼性保証を確保するため、水道GLPを取得しており、日々水質の向上に努めている。今後もおいしい水を供給できるよう努めていきたい。
- ・ウォーターサーバーやミネラルウォーターといったビジネスが多様に広がるのは、社会的に悪いことではないということをも前提としたうえで、洗濯、風呂、炊事、トイレなど諸々の用途に用いる水を相当の安価で、家庭までお届けしているという水道事業の価値や優位性について、市民に分かりやすくお伝えしていく必要があると感じている。

#### 【委員】

- ・災害や断水等の事故に対しては、地方公共団体や民間企業と同様、事業継続計画を策定し、これに基づいてしっかり対応していくことをPRすることで、市民に対して安心感を与えられるのではないかと。
- ・災害等に備えた応急復旧や応急給水などについては、事前防災が特に大事だと思うので、そのための準備をしっかりと行い、市民に安心感を与えていくということは非常に重要ではないかと。
- ・事業継続計画等の危機管理マニュアルでは、災害等が発生した場合の対応者と責任者をはっきり決めておかないと動けないと思うので、計画策定にあたっては留意してい

ただきたい。

**【事務局】**

- ・ 2、3年前から危機管理マニュアルの見直しを進めており、応急給水のマニュアルなどを実装する中で、職員の方からも事業継続計画の必要性について声が上がっている。今後は事業継続計画を実装し、それに基づいてリスクにしっかりと備えているということを市民に伝えることで、安心感の醸成に取り組んでいきたい。
- ・ 事業継続計画の中で、責任体制を明確にすることは非常に大切なことだと考えている。今後、マニュアルや手順書の策定にあたっては、責任体制の明確化について十分意識していきたい。

**【委員】**

- ・ 水道料金の支払方法について、クレジットカード払いは全体に占める割合が低い一方で、導入に対する要望は多い。また、クレジットカード払いは、口座振替や納付書払いと比べてコストが高く、経営の側面から見ると厳しいところがあるため、クレジットカード払いに係るコストが水道料金の水準に影響する、ということを示したうえで導入について判断いただく、という方向でいいのではないかと。
- ・ クレジットカード払いは手数料が高く、口座振替により支払っている市民から見れば不公平感があるため、導入しないほうが良いのではないかと。
- ・ 手数料の安い口座振替に誘導していきたいのであれば、納付書払いに係る手数料を料金に乗せる、もしくは口座振替では少し料金を下げるなど、市民に口座振替の方がお得だということを実感してもらうのが良いのではないかと。
- ・ 将来、料金改定を行うタイミングに合わせて、口座振替にしたらずし料金が安くなるような仕組みを導入することで、そちらに誘導し、収納コストの削減を図るという方法もあるのではないかと。

**【事務局】**

- ・ クレジットカード払いは手数料が高いが、金融機関の取扱手数料の値上げが続いているなど、今後、コストの構造も変化していくものと思われる。支払方法については、コストとのバランスを考慮したうえで、その時その時の状況に柔軟に適用することを踏まえ、引き続きサービスの拡充に努めたい。
- ・ 水道事業は公営企業であり、お客様の間で不公平感が出るのは好ましいことではないので、いただいた意見をよく考えながら、進めるべきことは進めていきたい。
- ・ 事業者が納付書払いを望むケースが多いといったようなニーズや、ペーパーレスの方向に進んでいくといった社会的な流れについても考慮したうえで、今後どのような仕組みを講じられるのか、よく考えていきたい。

**【委員】**

- ・ 市民理解の促進について、岩手県矢巾町では「水道サポーター制度」という取組を行っているので紹介したい。住民は職員から説明を受け、職員は住民の声を直接聴くことができる双方向の取組で、近年では東京都なども取り入れている。水道を市民が守

っていく、というような機運の醸成にもつながると思われるため、検討してみてもどうか。

- ・長岡市には4大学1高専があることから、広報誌や資料の作成などで学生とコラボレーションを行うのはどうか。水道に興味を持ってもらい、将来的に水道で働いてもらうためのきっかけづくりとして、様々な事業体でも取り組んでおり、いい取組になるのではないかと。
- ・長岡造形大学は市立で、学生が地域おこし協力隊として活動しているなどまちづくりについても取り組んでいるので、100周年事業ではコラボレーションして、アイデアをもらったりすると良いのではないかと。

#### 【事務局】

- ・令和8年の長岡水道100周年事業の機会を捉え、大学生とのコラボレーションを何とか形にしていければと考えている。また、コラボレーションの中でサポーター制度的なものも取り入れられないかどうか考えたい。

#### 【委員】

- ・施設見学会による理解醸成では、施設の見学等を通じて水道事業を知ってもらう、ということに対して一生懸命に取り組んでいるということを感じた。
- ・市の他の部署と連携して、それぞれの部署で行っている出前講座をパッケージ化することで、バラエティーに富んだ講座ができるのではないかと。また、それをホームページに一覧的に掲載することで、子ども会の行事などのイベントに呼びやすくなり、市民が知るきっかけにもできると思うので、検討してはどうか。
- ・出前講座は待っていても来ないため、こちらから攻めていく必要がある。例えば、企業に対しては、商工会議所へお願いして、説明する場面を作ってもらおうといった取組も考えられるのではないかと。

#### 【事務局】

- ・例えば、学校の総合学習で取り上げたいなどの受け止める側のニーズをしっかりと捉えたうえで、それに適合したメニューを提示することにより、出前講座に呼んでもらうような場面も増えると思うので、参考とさせていただきたい。

< 「(2) ベテラン職員等の減少に伴うマンパワー低下への対応」 「(3) 収益減少とコスト上昇による将来的な資金不足への対応」 にかかる事項 >

#### 【委員】

- ・業務の委託化については、すぐには進められない場合においても、より効率的な方法や職員定数との整合などを十分に検討し、委託化のタイミングや条件を継続的に考えていく体制を確保していくことが大切ではないかと。

#### 【事務局】

- ・水道は生活に不可欠なものであり、どういう状態になっても続けていくということ

前提とした場合、未来に向けて水道を支える職員を確保し、育てていくことが第一だが、どうしても充足しない状況に陥った際に何ができるか、ということのを常に準備しておくことが必要だと考えている。

#### 【委員】

- ・人手不足に対しては、通常時にどのように効率化を図っていくかということと、緊急時にどうするのかということ、しっかりと分けて考えるのが良いのではないかと。
- ・通常時における事業の効率化を第一に考えて、緊急時にはどのようにサポートし合っていくのかを考えることが重要ではないかと。
- ・民営化という方法もあると思うが、これについては、諸外国や宮城県の状況を注視し、慎重に進めていったほうが良いのではないかと。
- ・競争原理が働く商品の場合は民営化した方がいいと思うが、水道事業には競争原理が働かないため、民営化は慎重に検討すべきだと思う。
- ・人口減少やマンパワー不足を踏まえると、広域連携が必要となってくる場面が増えてくるのではないかと。人員を集約すると、周辺部の現場には近隣市町村からの方が先に駆けつけられるというケースも想定されるため、今後は他市町村とも連携を密にして対処していく必要があると感じた。

#### 【事務局】

- ・人手不足に対しては、日頃から情報収集に努め、その時々に応じて適切な手段を講じていくことが、現実的になってくると思われる。
- ・民営化について、施設の所有権は公に残したまま、運営権のみを民間企業に委ねる、いわゆるコンセッション方式の導入が可能となり、第1号の例として宮城県で始まっている。財政赤字の削減や、サービスの向上、料金引き下げを目標に導入されたが、諸外国では逆に作用した例もあるとの話を聞いており、民営化については慎重に検討しなければならないと考えている。

#### 【委員】

- ・水力発電について、発電による収益を見込んだ場合、長期間にわたり施設を変えられないなど条件が厳しくなるが、自家消費の場合には条件が若干緩くなる。様々な事業体の取組事例もあるため、自家消費も含めて検討した方がより効果的ではないかと。
- ・太陽光発電については、採算があまり合っていないという話を聞いており、マイクロ水力発電についても難しいのではないかと。
- ・デマンドレスポンスについて、日中の電力需要の調整が可能なのか。
- ・夢のような話かもしれないが、将来的には水素発電も考えていただけると良いのではないかと。

#### 【事務局】

- ・可能であれば金銭的負担やリスクがない方法でやりたい、ということで民間事業者に場所を貸す方法を挙げている。他にも太陽光発電導入など様々な可能性があると考えており、自家消費についても併せて検討していきたい。

- ・マイクロ水力発電は、水道事業においてポテンシャルを持っており、県内他市でも導入事例があると聞いている。本市においても候補地はあるが、将来的な施設の配置計画を検討したうえで、進めていきたい。
  - ・デマンドレスポンスについては、今後、他市の状況を見極めながら検討していきたい。
- ・次回の会議では、これまでの議論を踏まえ、水道事業全体に係る将来的な資金不足への対応について検討課題とすることが確認された。